

## 第5回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

### 1 開催日時

平成28年8月25日（木） 13時30分～15時00分

### 2 開催場所

花巻市花城町9番30号 花巻市役所新館 3階会議室

### 3 出席者

委員 6名

影山部会長、高橋勉委員、佐藤委員、箱崎委員、戸来委員、高橋セキ子委員  
事務局、施策主管課

### 4 課題及び報告事項

#### ◆施策：生産基盤の整備

・草地更新の風評被害対策について具体的には？

→原発の影響による風評被害について、土壌を天地返しして汚染されていない土壌に草を植えて、それを餌にする。

・水田整備率について旧市、旧3町で地域別の整備率に違いはあるか？

→地域単位での集計は取っていない。旧花巻、旧石鳥谷の平場では進んでいるが、大迫、東和地域では地形的な問題もあり進んでいない。

・物理的に規模拡大できないのであれば、小規模・小区画なりに生産性を高める方策を考えてはどうか。

→段々になっているような圃場の場合には、園芸などによって収益率を上げるよう、「作物の振興」の中でJA等と一緒に取り組んでいるところ。

・畜産農家の数の推移は？

→減少している。子牛価格は高いが、高齢化等により農家の数は減ってきている。花巻市内の頭数はそれほど減っていない。大規模な経営者が参入きたり、増頭しているところがある。

・生産施設等整備事業の予算について、事務事業シートに国や県の予算不足について記載があるが、何らかの方法で増やそうという考えはあるのか。

→県の事業は要望の3分の1程度の採択となっている。市ではさらに細かい作物の支援をしていけるようにJAと協力していく。その他も大半は半分以下の補助であり、補助率が低いという声がある。県へは引き続き要望していく。

・新しい取り組みはあるのか？

→施設整備したものについて、長く機能維持させていくための支援や、作物への支援な

どがある。

・草地更新の財源はどうなっているのか。国からの補助か。東電からの賠償もあるのか？  
→財源の半分は県、残り半分を市が負担している。東電からの賠償は草地更新事業に関してはないが、除染事業などでは賠償請求をしている。

・草地以外の被害はあったのか？

→しいたけ、山菜、一部の肉用牛にも出荷制限があった。小麦、米、アスパラなどの野菜、果樹は検査してから出荷している。

・2つの成果指標があるが、水田整備に関わる事業予算と、地域共同農業資源管理に関わる事業予算の割合は？水田整備率は進んでいるとの話であるから、地域共同農業資源管理面積の向上のために予算を多めに振ってはどうか。

→一概に比較はできないが、ハード事業には多額の費用がかかり、維持管理にはなるべく少ない予算で効果を出すという面がある。

・中山間地域の環境保全支援は？

→今回の施策にはないが、別の施策で支援事業がある。

・公共牧野の草地更新が遅れているのではないかな？

→石が大量にあるところなど物理的に作業できないところがあるため、遅れているように見えるが、要望があり更新可能なところは実施している。27年度は国の補助制度が終わりになるという話があり、やれるところは全てやろうとしたため、目標値を高めに設定している。実際には28年度も補助が続いている。

・実際に、更新作業がうまくいくと、農家の負担は減るのか。

→風評被害がなくなることにより、乳価が普通通り取引されるようになる。何もしない草地よりも草の伸びもよいので、農家の経営にはプラスになる。

・土地改良の国と県の違いは？

→事業規模による。たとえば、ダムや大きな水路は国、補助整備は県など。

#### ◆成果指標について

・施策の目指す姿に沿っており妥当である。

・水田整備率が3年間変わっていないのは、整備が完了しないと実績とならないから。よって、継続中ととらえるべきだろう。

・市街地の水田整備はなくてもよいのではないかな。住宅地周辺は宅地化する可能性もある。100%の整備は無理がある。

・水田整備は新たな整備というよりも、今後は維持改修についての指標が必要になるだろう。

#### ◆施策を構成する事務事業について

・事務事業に過不足はない。さらに向上を図るとすればいくつか考えられる。

・既に整備した農地をさらに大規模にしていく事業。今の機械は大型で性能も良いので、規模が大きくなると効率が悪い。

- ・白金豚、黒ぶどう牛などの畜産業を支援する事業。少数生産だからこそ価値を高められるのでは？そうすれば、施設の拡大も不要となるはず。
- ・小規模農地で付加価値の高い作物の生産を支援する事業。ブランドの確立は必須。
- ・花巻での地産地消市場拡大を支援する事業。小中学校の給食では米は既に実施できているのだから、他の農産物にも応用すれば可能ではないか。

◆施策の総合的な評価について

- ・評価は妥当である。
- ・次世代の農業従事者の確保が課題。人の育成、労働力の確保にはお金だけでなくコミュニティが大事。市が舵取りをしてほしい。
- ・前回評価した施策「担い手の育成」に引き続き、産業としての農業だけでなく、環境維持、コミュニティの場としての農業を考えてほしい。

## 第5回花巻市行政評価委員会会議録（暮らし部会）

### 1 開催日時

平成28年8月23日（水） 午後1時30分～3時30分

### 2 開催場所

花巻市花城町9番30号 花巻市役所新館 1階会議室

### 3 出席者

委員 5名

鈴木部会長、高橋委員、吉田委員、尾美委員、福盛田委員 ※木村委員は欠席  
事務局、施策主管課

### 4 課題及び報告事項

#### ◆施策：公共交通の確保

・バスの運行は、経費はかかるが利用者が少ないとの説明だが、具体的な数値は？

→添付資料「花巻市におけるバス路線の状況」P5で説明。

・経費はかかる、利用者は少ない この対策はどう考えているか？

→将来的に維持が難しくなる路線もあると思われるため、公共交通計画のもと、オンデマンドに切り替えるなど、見直しをする必要がある。

・バス路線に関するアンケートを実施すれば「必要だ」との答えが返ってくると思うが、答えた人すべてがバスを利用するかと言うとそうではないだろう。なかなか難しい問題だと思うが…

→委員のお話のとおり。そのことも含め今後の計画の中で検討を進めていく

・オンデマンド導入に向けてシステム導入が必要だと思うが、今後の予定は？

→本年の9月議会に予算提案を行うこととしている。予算が議決となればシステムを導入して、試験運行を行う予定である。

・予約応答型、デマンド、オンデマンド いろいろ用語があるが、用語の使い分けの解説を行うこと、あるいは分かりやすい用語に統一することを検討してはどうか？特に高齢者に分かりやすいよう工夫してほしい。

→最終的には「オンデマンドバス」にできればと考えている。

・「前日までに予約（デマンド）」というのを面倒くさいと言う人もいる。そのような人をお世話する人が各地域に配置されるというのも良いのかなと思うが如何か？

→今のところ「使いにくい」といった声はないが、「当日予約可能（オンデマンド）」にする際は、もう一度説明会を行い周知の徹底を図る。

- ・都市施設機能改善事業が、施策への直結度Cとなっているが、新幹線利用者の利便性を向上した事業であり、直結度Bでもいいのではないか？

→今回の事業は、新花巻駅前の駐車を舗装したものであるが、駐車場を利用する方は自家用車で来る方。「公共交通の確保」という視点で見ると、自家用車利用者の便宜を図った事業は直結度が低いと判断したもの。

- ・空港利用者は年々増加しており事業の成果が表れていると思うが、市民が空港を利用しやすくなったと思っているか分かる指標はないか？

→現時点ではそのような視点でのアンケートを行っていないので分からない。

- ・新花巻駅前の駐車場は徐々に有料化になるのか？有料化により駅利用者が他の駅（盛岡や北上）に流れるということはないか？

→有料化に反対する声もあるが、有料でもいいのでしっかりした駐車場にしてほしいという声が多い。より快適に利用してもらうためにもしっかりと舗装を行い有料とするものである。また、無料駐車場ゆえの問題として放置車両問題があるが、有料化とすることで今後放置車両も減少すると考える。

- ・放置車両はまだあるのか？

→複数台あるが、個人所有物であり勝手に撤去できない。法的手続きを行えば撤去できるが、費用、時間、労力がかかり簡単ではない。

#### ◆成果指標について

- ・施策の目指す姿に沿った指標。目標値の設定も適切である。
- ・他に考えられる指標として、鉄道に関する指標があればいいのではないか？また、市民が花巻空港を使いやすいと感じているかが分かる指標もあればいいと思う。
- ・成果指標の状況の分析については不十分な感あり。前年度との比較分析や路線バス利用者減少の要因分析などを行うべき

#### ◆事務事業について

- ・特に問題なし。公共交通確保対策は更なる向上を期待。

#### ◆施策の総合的な評価

- ・問題等なし

#### ◆記載内容について

- ・デマンド、オンデマンドといった用語については説明を掲載すべき。また、市民が分かりやすいよう統一した名称とするなど検討してほしい。

## 第5回花巻市行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

### 1 開催日時

平成28年8月31日（水） 午後1時30分～午後3時10分

### 2 開催場所

花巻市花城町9番30号 花巻市役所新館 1階会議室

### 3 出席者

委員 5名

堀籠部会長、小山田委員、高橋委員、佐藤委員、板垣委員  
事務局、施策主管課

### 4 課題及び報告事項

#### ◆施策：豊かな人間性の育成

- ・施策評価シートの4「施策を構成する事務事業一覧」の記載順は優先順位など何か理由あってのことか？1「施策の目指す姿の実現に向けた主な取組実績」と合わせるべきではないか？

→優先順位等はない。

- ・「小学生国際理解推進事業」、「中学生国際化教育推進事業」の成果指標がないのはなぜか？

→英語力の向上を目的としたものではなく、成果を測ることが難しいため。

- ・成果を測ることはできるのではないか？例えば「外国人に臆せず話しかけられる」など。

→事業を実施して次年度に効果が出るものでもない。

- ・小学校・中学校「地域体験型学習事業」はどれ位の時間を確保しているのか？

→総合学習の時間をあてており、年間35時間くらいの総合学習の時間のうち、事業を活用するのは1時間、その前後の準備やまとめ作業が伴うため、数時間である。また、多くの学年で実施できるよう工夫している。

- ・3「成果指標の達成状況」に「自分の良さを発見させる指導」とあるが、どういうことか？

→人から認めてもらう：「児童・生徒表彰事業」、地域の素晴らしいものを認識することにより自分の良さを発見する：「地域体験型学習事業」などが自己肯定につながるということである。

- ・「小学生国際理解推進事業」、「中学生国際化教育推進事業」の成果を測ることが難しいというのは、他市も同じか？

→他市の状況は把握していないが、学力向上の方を目指している市もあるかもしれない。

・過去には、中国語指導も実施していたと思うが、今は実施しているのか？

→今は実施していないはずである。ただ、中国語指導の実績のある小学校に中国から部活動の見学を目的とした派遣団が来て、指導を受けた児童が対応したというつながりはある。

・「小学生国際理解推進事業」、「中学生国際化教育推進事業」で外国語指導助手の報酬が異なるのはなぜか？

→小学校は市の直接雇用であり、中学校は派遣会社を通じて委託しているため。

・6「施策の総合的な評価」に記載の「教育研究所」の役割とは？

→小中学校の学力向上などを目的としおり、現職の先生が副読本の制作、教育支援、幼保小連携などの研究班を構成し、研究発表により現場に還元している。

・「現状と課題」に「協調性・責任感・規範意識などが低下している」とあるが、事実か？今の子どもたちはきちんとしているように感じる。

→子どもを取り巻く環境変化により一般論として低下しているという認識である。

・3「成果指標の達成状況」に「中学校では復興教育学校支援事業の成果が表れ、」とあるが、事務事業評価シートにおいては中学校の取組状況を読み取ることができない。

→外部講師による復興講話、大槌町の訪問・海岸清掃、遠野市の後方支援の学習、釜石市の防災計画の学習などが行われている。小学校より発展的な活動を実施している。

・同事業に何校の中学校が取り組んでいるのか？事務事業評価シートに記載がない。

→1、2校除いてほとんどの学校で取り組んでいる。また、取り組みのない学校もこの事業を活用していないだけで同様の教育は実施している。

・成果指標の2つ目「親切・思いやりの心を持った児童生徒の割合」は100%を目指すのか？

→現状で満足するレベルではあるが…。

・現状維持（これ以上落ちないようにする）という目標設定の考え方もある。

・施策の成果指標の数値は花巻市独自の数値か？先日の「学力・体力の向上」の施策の方は岩手県平均との比較であったが、こちらの成果指標は岩手県平均より良いのか？

→大きな差はないが岩手県平均より良い。

・施策の成果が平成23年度から5年で大きく向上しているが、近年特別な取組を実施しているのか？全国的にも同じような傾向か？

→特別な取組は実施していないが、全国的にも同じ傾向のようだ。

・震災の年からスタートしているため、その影響もあるのではないか。

- ・「小学生国際理解推進事業」、「中学生国際化教育推進事業」で成果指標を設定するのは現場の怠慢である。大切なのは英会話能力ではなく、世界と近づくことやコミュニケーションの意欲を向上させることであり、それを現場の先生がきちんと理解する必要がある。

#### ◆成果指標について

- ・施策の目指す姿の「思いやりの気持ち」、「自己肯定感」はそれぞれ成果指標に現れているが、「郷土を誇りとし」の部分が不足している。
- ・2つ目の指標「親切・思いやりの心を持った児童生徒の割合」については現状維持で良いのではないか。
- ・1つ目の指標「自己肯定感を持った児童生徒の割合」は、自己肯定も自己否定もあって当然であることから、高すぎるのはおかしい。何も考えていない、もしくは建前の可能性もある。
- ・「郷土を誇りとし」の部分に対応する指標として、「花巻市（自分の住んでいる地域）が好きですか」など。
- ・いじめや不登校などネガティブな角度の指標があっても良いのではないか。施策の目指す姿に直結はしないが、裏付けにはなる。また、今の指標の建前で答えている部分を補うことができる。いじめの場合、件数ゼロを目指す現場は隠そうとしてしまうため、発見することを重視して相談件数などとすべき。
- ・家庭の要因もあるはず。行政の関与が難しいことではあるが、成果を達成するに当たり、PTAとの連携などにより外部環境の把握も必要。
- ・根拠となる数値が示されておらず、事務事業評価シートの記載内容も不足している。

#### ◆施策を構成する事務事業について

- ・「郷土の誇り」に関する取組が不十分。高校卒業後多くの子どもが市外に出てしまう。市民憲章について小中学校でも取り組むべき。
- ・「小学生国際理解推進事業」、「中学生国際化教育推進事業」は成果指標を設定しなければならない。例えば「異文化を理解したか」「外国を身近に感じるか」など。花巻市教委として、「国際理解とは何か」をきちんと示さないと検証できない。
- ・大きく向上を図るべきものはない。事業数が多く、どれか1つに力を入れたからといって施策の成果が向上するものではない。
- ・市民憲章について小中学生まで理解を深める事業。
- ・家庭生活で自分の良さを発見させるための事業。

#### ◆施策の総合的な評価について

- ・唐突に道徳と先生の研修の話が出てきており、今実施している事務事業の評価が現れていない。現状の課題と方向性を記入すべきである。
- ・事務事業の成果指標で踏み込んでいないからではないか。

◆シート記載内容について

- ・ 1 「施策の目指す姿の実現に向けた主な取組実績」と 4 「施策を構成する事務事業一覧」の事務事業の順番が一致しておらず、何か意図があるのかと混乱してしまう。
- ・ この施策だけでなく全般的に言えることだが、施策評価シート等の記載内容のレベルが低い。各項目の関連づけをしっかりと記載しないと評価もままならない。